

1 調査の概要（仙台市を含む）

調査実施日	令和7年4月14日（月）～17日（木）
調査対象	①児童生徒：小学校6年生（約1万7千人）、中学校3年生（約1万6千人） ②学校：小学校等（343校）、中学校等（191校）
調査事項	①児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、理科〕 / 質問調査 ②学校：質問調査
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信
今年度の調査の特徴	・CBT調査の導入（中学校理科） ・多様な児童生徒の状況把握 ・結果公表の内容・スケジュールの改善

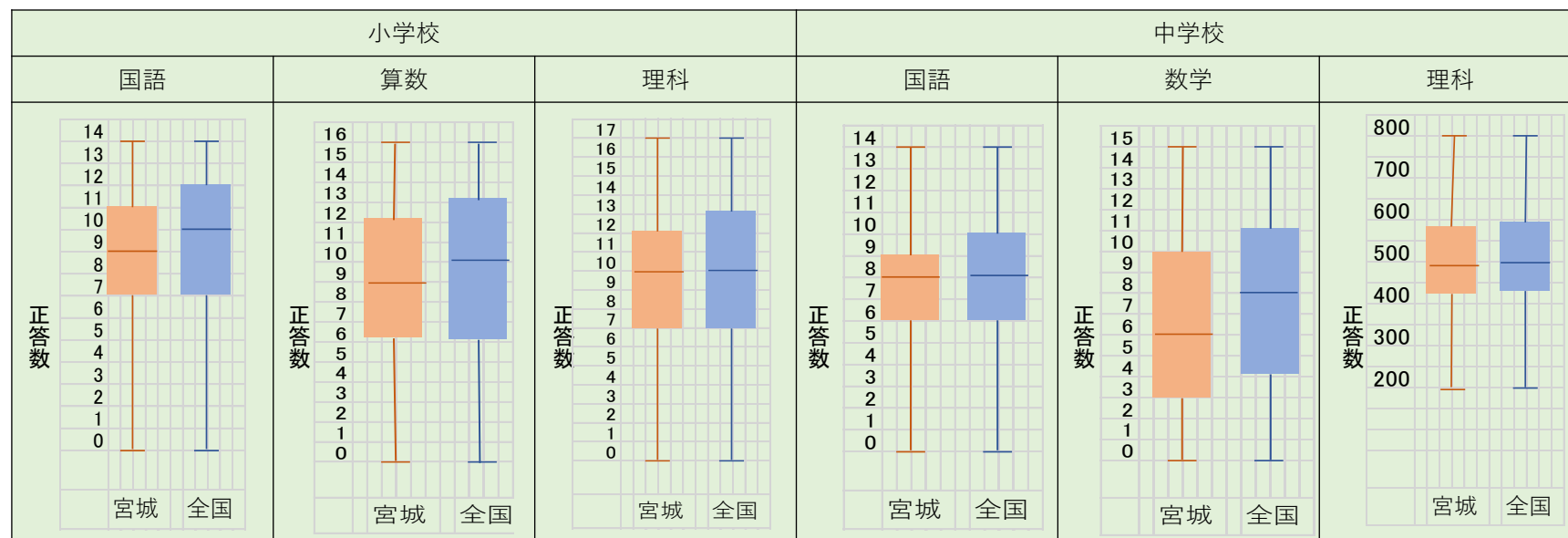
2 宮城県の正答率・IRTスコア結果概要

宮城県（公立）の平均正答率・平均IRTスコア（仙台市を含む）

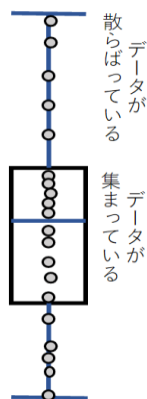
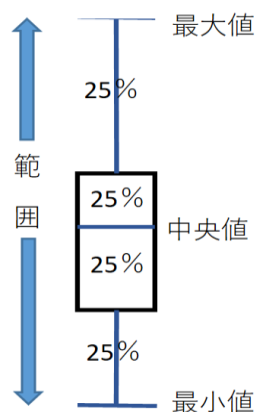
令和7年度	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科 ※
全 国	67	58	57	54	48	503
宮城県	65	55	55	54	46	503

※ 中学校理科はCBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

宮城県（公立）の正答数・IRTスコアの分布



箱ひげ図について



○ 小学校の国語・算数・理科すべてにおいて、得点のばらつきは全国と同程度だが、中央値や上位層の得点がやや低く、全体的に下方に分布していることが分かる。

○ 中学校では、国語が上位層、数学が中間層から下位層の得点がやや低く、理科もスコアが全国よりわずかに低くなっている。

3 教科に関する問題の調査結果【小学校】

小学校国語

全国値を上回った問題

□設問 1 三（1）

【インタビューの様子の一部】で、発言者の目的として適切なものを選択する
自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題

72.1%（全国71.8%）

全国とのかい離が見られた問題

□設問 2 三

【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く
目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題

57.3%（全国61.3%）

□設問 2 四イ

【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す

目的や意図に応じて学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題

64.2%（全国72.1%）

小学校算数

全国値を上回った問題

□設問 2（1）

示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ

平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる問題

59.1%（全国58.3%）

全国とのかい離が見られた問題

□設問 2（2）

方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ

台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題

43.6%（全国50.2%）

□設問 2（4）

五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く

基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題

31.9%（全国37.0%）

小学校理科

全国値を上回った問題

□設問 1（2）

赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く

赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる問題

61.1%（全国60.5%）

全国とのかい離が見られた問題

□設問 2（4）

乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ

乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる問題

49.9%（全国55.1%）

□設問 1（3）

【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ

赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる問題

75.3%（全国77.8%）

4 教科に関する問題の調査結果【中学校】

中学校国語

全国値を上回った問題

□設問 3 三
「しきりと」の意味として適切なものを選択する

事象や行為を表す語句について理解しているかどうかをみる問題

63.9% (全国61.0%)

□設問 1 二
ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する
目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題

83.1% (全国82.5%)

全国とのかい離が見られた問題

□設問 4 一
手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見つけて修正する

読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題

51.6% (全国57.3%)

中学校数学

全国値を上回った問題

□設問 6 (1)
連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める

事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる問題

64.5% (全国62.8%)

全国とのかい離が見られた問題

□設問 5
ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める

相対度数の意味を理解しているかどうかをみる問題

36.9% (全国42.5%)

中学校理科

全国値を上回った問題

□設問 4 (2)
「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する
火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる問題

95.2% (全国92.8%)

□設問 5 (1)
加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する
加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかをみる問題

94.4% (全国93.0%)

全国とのかい離が見られた問題

□設問 1 (1)
電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する

電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題

48.1% (全国51.9%)

5 児童生徒質問調査結果

授業・家庭学習への取組

成 果

多くの児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考えている

質問項目	県	全国
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか ※肯定的回答の割合	小 85.1 中 75.8	小 82.5 中 74.8

質問項目	県	全国
前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか ※肯定的回答の割合	小 81.5 中 78.6	小 80.3 中 77.7

今後の課題

「平日1時間以上」学校以外で学習する児童生徒の割合が全国を下回る

質問項目	県	全国
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾、家庭教師、インターネットの活用も含む）※「1時間以上」の割合	小 51.4 中 56.9	小 54.0 中 61.1

I C T 機器の活用

成 果

約8割の児童生徒が、I C T機器を「ほぼ毎日」「週3回以上」活用している

質問項目	県	全国
前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日」「週3回以上」の割合	小 79.7 中 86.8	小 71.7 中 76.5

質問項目	県	全国
自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか ※肯定的回答の割合	小 77.6 中 80.4	小 76.7 中 76.6

今後の課題

情報の整理に関する項目では、小中ともに7割を下回る

質問項目	県	全国
自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか ※肯定的回答の割合	小 69.7 中 67.8	小 69.3 中 63.3

各教科への興味・関心、理解度

成 果

「国語の勉強が得意」「理科の勉強が得意」という回答が、小中ともに全国を上回る

質問項目	県	全国
国語の勉強は得意ですか ※肯定的回答の割合	小 63.7 中 55.7	小 61.4 中 51.4

質問項目	県	全国
理科の勉強は得意ですか ※肯定的回答の割合	小 79.4 中 56.8	小 78.4 中 50.7

今後の課題

「算数・数学が好き」という回答が、小中ともに全国を下回る

質問項目	県	全国
算数（数学）の勉強は好きですか ※肯定的回答の割合	小 54.7 中 52.6	小 57.9 中 53.8

1 概況		R7.6月末		前年同期		増減 (当月-前年同月)
卒業生		17,123	100%	16,955	100%	168
うち	進学希望者	13,872	81.0%	13,601	80.2%	271
	臨時的仕事希望者	209	1.2%	209	1.2%	0
	進路未定者	36	0.2%	45	0.3%	▲ 9
	就職希望者	3,006	17.6%	3,100	18.3%	▲ 94
うち	就職内定者(※)	3,000	99.8%	3,097	99.9%	▲ 97
	就職未内定者	6	0.2%	3	0.1%	3

※就職内定者のうち

	3,000	100%	3,097	100%	▲ 97
県内内定者	2,301	76.7%	2,428	78.4%	▲ 127
県外内定者	699	23.3%	669	21.6%	30

2 就職内定率の推移

	R2.3卒	R3.3卒	R4.3卒	R5.3卒	R6.3卒	R7.3卒
県	99.6%	99.5%	99.8%	99.7%	99.9%	99.8%
全国	98.1%	97.9%	97.9%	98.0%	98.0%	98.0%

※ 県は6月末現在、全国は3月末が最終報告となる。

3 県内・県外内定者の割合の推移

	R2.3卒	R3.3卒	R4.3卒	R5.3卒	R6.3卒	R7.3卒
県内	78.5%	80.1%	81.0%	80.2%	78.4%	76.7%
県外	21.5%	19.9%	19.0%	19.8%	21.6%	23.3%

4 就職未内定者の推移

	R2.3卒	R3.3卒	R4.3卒	R5.3卒	R6.3卒	R7.3卒
人数	16人	21人	9人	9人	3人	6人
割合	0.4%	0.5%	0.2%	0.3%	0.1%	0.2%

※求人倍率

	R7.5月末	前年同期	増減 (当月-前年同月)
求人倍率	5.43	4.95	0.48

5 進路達成に向けた主な取組

- (1) 進路達成支援事業
- ・卒業年次生向け「就職達成セミナー」、「入社準備セミナー」、「高校生の就職を考える保護者セミナー」の実施
 - ・1・2年生向け「将来セミナー」の実施
- (2) インターンシップの推進
- ・受入企業等の情報提供
 - ・県の機関におけるインターンシップ、アカデミックインターンシップの推進(R6実施率:67.9%)
 - ・インターンシップの手引の作成・配布
- (3) 合同企業説明会・就職面接会(宮城労働局、県雇用対策課と共催)
- ・合同企業説明会を県内6圏域で開催(参加生徒:延べ約2,035人)
 - ・就職面接会(石巻地区)10月30日開催
 - ・2年生向け企業説明会を仙台で10月21日に開催(新規)
- (4) 「地学地就」産業人材育成事業(県産業人材対策課と連携)
- ・地学地就コーディネーターの配置:企業訪問等で得た情報を生徒・保護者に還元

1 目的

調査書における「欠席の状況」欄については、これまでも選抜に用いていないことから、真に必要な事項であるか、見直しを図る。

2 検討の経緯

入学者選抜審議会及び専門委員会において、「欠席の状況」欄については、調査書から削除することが望ましいとの意見がまとめられた。
このことを受けて、令和8年度入学者選抜より、調査書の「欠席の状況」欄を削除する。

3 調査書様式

【従来の調査書様式】抜粋

3 行動の記録

基本的な生活習慣	思いやり・協力
健康・体力の向上	生命尊重・自然愛護
自主・自律	勤労・奉仕
責任感	公正・公平
創意工夫	公共心・公德心

6 欠席の状況

学年	事項	欠席日数	事由
1			
2			
3			

7 特記事項

※No.



【調査書様式(案)】抜粋

3 行動の記録

基本的な生活習慣	思いやり・協力
健康・体力の向上	生命尊重・自然愛護
自主・自律	勤労・奉仕
責任感	公正・公平
創意工夫	公共心・公德心

6 特記事項

【調査書様式(案)】

(令和●年度入学者選抜用)

調査書

調査書等作成委員会

記載責任者印

※No.

受験番号

氏名

性別

生年月日

平成 年 月 日生

卒業年月

令和 年 月

記載内容に誤りがないことを証明します。

令和 年 月 日

学 校 名

校 長 氏 名

印

1 各教科の学習の記録

教科	学年	1	2	3	※
国 語					
社 会					
数 学					
理 科					
外 国 語					
音 楽					
美 術					
保 健 体 育					
技 術・家 庭					

4 特別活動等の記録

(1) 学級活動 (2) 生徒会活動 (3) 学校行事 (4) その他

2 総合的な学習の時間の記録

5 スポーツ活動、文化活動、社会活動、ボランティア活動等の記録

3 行動の記録

基本的な生活習慣	思いやり・協力
健康・体力の向上	生命尊重・自然愛護
自主・自律	勤労・奉仕
責任感	公正・公平
創意工夫	公共心・公德心

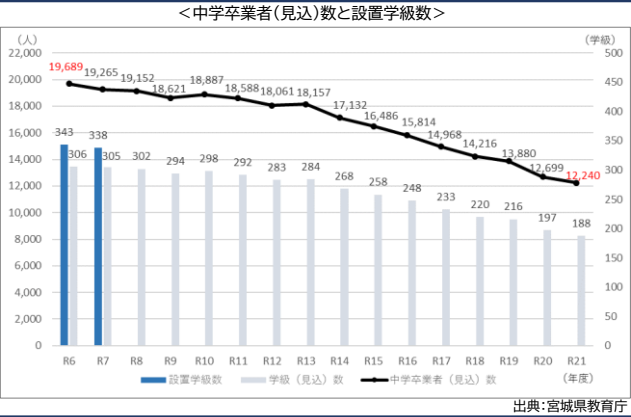
6 特記事項

※No.

第1章 新たな県立高校将来構想の策定について

▶ 策定の趣旨

○急速な少子化の進行
・中学校卒業生（見込）数
R6:19,689人 ⇒ R21:12,240人
（▲7,449人、▲37.8%）
・全日制公立高校の学級（見込）数
R6:343学級 ⇒ R21:188学級
（▲155学級、▲45.2%）
※令和8年度から所得制限のない高校授業料無償化が始まる見通しであり、私立高校への進学者数が増え、公立高校の学級（見込）数がさらに減少する可能性がある



第2章 高校教育を取り巻く現状と課題

▶ 高校教育を取り巻く現状と課題

○社会経済環境の変化
・デジタル・グローバル化等、必要となる知識・能力の変化
・成年年齢の引き下げ

○県立高校の現状と課題
・生徒の教育的ニーズに応じた学びの多様化
・地域産業を支える人材育成に向けた産業分野の学びの確保

第3章 高校教育の創造的な再構築に向けた考え方

▶ 基本理念

- ①全ての生徒の可能性を最大限引き出す質の高い高校教育を実現するため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- ②学校に生徒を合わせるのではなく、興味・関心や希望に応じて生徒が学びを選べる、生徒を主語にした高校教育を実現する。
- ③この実現に向け、少子化の急速な進行等の社会経済環境の変化を直視しながらも、魅力的な教育環境を整えるため単なる数合わせではなく、県立高校の創造的再構築を行う。

▶ 基本方針

- ①県内どこに住んでいても生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保する。
- ②スクール・ミッションの再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すことで、生徒に合った、質の高い学びの機会を提供する。
- ③少子化の進行による生徒数の減少や学校の小規模化の中でも生徒が切磋琢磨し、刺激し合うことができる環境を整える。
- ④デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバル化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整える。
- ⑤地域資源を活用するなどして専門性・応用力を高め、より実践的に学べる環境を整備する。
- ⑥多様な状況の生徒、配慮や支援が必要な生徒が取り組みやすい環境づくりを進める。

▶ 学校配置及び学校規模の考え方

- ①圏域の見直し（7圏域⇒5圏域）と学校間連携・オンラインによる教育空間の拡張
- ②普通科改革の推進や拠点校での進学に対応した教育支援の充実
- ③学校・学科間連携による専門学科における多様な教育の提供
- ④圏域の実情に応じた生徒の多様な生活・学習スタイルに対応した高校の配置
- ⑤通学困難地域における小規模校の存置又は通学・移動手段の確保
⇒人口減少を見据え、圏域ごとの必要学級数を設定する。



田尻さくら高校:遠隔授業配信

▶ 再構築後の姿

中部地区	・進学校と特色ある普通科、専門学科の基幹校を配置	中部地区以外	・圏域ごとに拠点校を配置 ・特色ある普通科や専門学科は、学校・学科の連携・併置も含め、地域の特性を考慮して配置
・地域の実情に応じた多様な学びへの対応（idealスクール、インクルーシブ教育、通学困難地域の小規模校等） ・市立・私立高校と連携・調整しながら、県立高校が担う役割等を整理			

第4章 高校教育の創造的な再構築に向けた取組

▶ 県立高校教育の質の向上の方向性

確かな学力の育成と
安全・安心な
教育環境の充実

多様なニーズに
対応した教育の推進

教育DXの推進
(デジタルとリアルの融合)

地域と学校の
連携・協働体制の推進
(全国募集など)

▶ 時代のニーズに対応した高校の魅力化

～学校に生徒を合わせるのではなく、興味・関心や希望に応じて生徒が学びを選べる、生徒を主語にした高校教育の実現～

興味・関心や適性に
合わせて学びたい

大学進学に向け
切磋琢磨しながら
学びたい

先端技術などの専門
知識を学びたい

社会に出た時に役に
立つ知識を学びたい

多様なニーズに対応し、可能性を広げるための学習環境の整備が必要

大学や企業と連携した
専門的な学び

地域の特性に応じた
学科横断的な学び

実社会と結びついた
知識の習得

オンラインを活用した
他校と連携した学習

ピアグループの形成
による学習

地域資源の活用など
特色あるカリキュラム

▶ 多様な学びの在り方

idealスクール	定時制・通信制	特別な配慮や支援を必要とする 生徒への対応
・生徒の多様な生活・学習スタイルにフレキシブルな対応が可能 ・他地域への展開などによる支援の充実	・定時制の現状を踏まえidealスクールで取り組んだ実績の活用 ・ニーズを踏まえた、通信制高校（課程）の機能強化等	・高校と特別支援学校の併置等によるインクルーシブ教育の推進 ・通級や別室支援等による学習や学校生活への支援の充実

▶ 小規模校の学びの在り方

オンラインの効果的な活用推進	地域連携や学校間連携の取組
・小規模校における学びの質の確保に向けた、オンラインの効果的な活用	・地域と密接に関わる探究的な学びなどによる学校づくりの推進 ・学校間連携による学習機会等の確保

▶ オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

- ・オンライン教育センター（仮）の設置による学びの質の確保や生徒の多様な教育的ニーズに応じた教育環境の整備

第5章 将来構想の推進

▶ 家庭・地域・学校の協働の必要性と役割

- ・将来構想の推進に向けコミュニティ・スクールの仕組みを活用し、家庭・地域・学校が役割分担をしながら協働する。
- ・市町村との連携・協働を一層推進するとともに、企業や関係団体等との連携体制等を構築する。

▶ 持続可能な学校教育の推進

- ・社会に開かれた教育課程の推進
- ・全ての生徒の可能性を最大限引き出す質の高い教育を実現するための教職員の資質能力向上と働き方改革の推進
- ・構想の実現に向けて、ニーズを見極めながら外部リソースも積極的に活用するなど、必要な体制の確保に努める。

▶ 将来構想の推進に向けた適性な進行管理

- ・さらなる少子化の進行や国の制度改正などに応じて、必要な見直しを行う。
- ・将来構想の推進に向けた関係者による推進体制を構築し、進行管理を行う。

次期県立高校将来構想「高校教育の創造的な再構築」に向けた柱となる取組について

目的

- 全ての生徒の可能性を最大限引き出す質の高い高校教育を実現するため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- この実現に向け、少子化の急速な進行等の社会経済環境の変化を直視しながらも、持続可能な教育環境を整えるため、県立高校の創造的再構築を行う。

取組の方向性

- 学校に生徒を合わせるのではなく、興味・関心や希望に応じて生徒が学びを選ぶ、生徒を主語にした高校教育の実現
- デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバル化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整える。

1 学力と探究を極め進学力も向上させる環境の整備

- ✓ **高い学力と探究力を兼ね備え、難関大へも挑戦できる人材を育成する拠点校を設置**する。

- 他の拠点校等と連携したピアグループ（協働学習体制）の形成等による進学力強化
- 実践的な課題解決能力を養う探究活動による希望進路の実現



仙台三高：教科横断的な「データサイエンス」による科学的な探究学習

3 多様な学びのニーズへの対応

- ✓ 多様な学習ニーズに応じて**フレキシブルに学ぶことのできるidealスクール**の取組の実績を踏まえ、**他地域への展開**を検討する。
- ✓ **多様な状況の生徒、配慮や支援が必要な生徒**が取り組みやすい環境づくりを進める。



京都府立清明高等学校：個別最適な学習スタイル

2 専門学科における実践的な学び

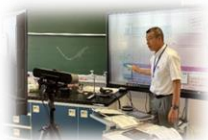
- ✓ 農業や工業については、大学や民間との連携により**先端技術に関する学びを充実させた科学技術高校を設置**する。
- ✓ 水産については、**6次産業化や海洋資源の活用など、地域の特色を活かした学び**の機会を提供する。
- ✓ そのほか、農業科、工業科、商業科など、複数の学科を幅広く学べる環境を整備し、**より実社会と結びついた学び**の機会を提供する。
- ✓ さらに専門性の追求など多様な進路に対応した学びへも対応。



三重県水産高校：レーダー・自動衝突予防援助装置シミュレーター

4 オンラインの効果的な活用などによる教育空間の拡張

- ✓ **オンライン教育センター(仮)の設置**により、小規模校をはじめとする学校での**学びの質を確保**する。
- ✓ 通学や移動時間が長くなる生徒のため、デジタル技術の活用によりギャップを埋める対策を講じる。



田尻さくら高校：遠隔授業配信

▶ 創造的な再構築に向けた学校配置・学級規模の設定

- ・ 学校活動の維持のためにも、一定程度の学校規模を確保するため、圏域を広く捉えることとし（7→5）、圏域の実情を踏まえながら、普通科や専門学科、多様な学習ニーズに対応するための学校を配置する。
- ・ 必要学級数の設定に当たっては、人口動態の他、私立高校の授業料無償化などの制度変更の影響も盛り込む。

(仮称) 第4期県立高校将来構想答申骨子 (案)

第1章 新たな県立高校将来構想の策定について

1 策定の趣旨

- ・急速な少子化の進行と人口減少局面の継続
- ・生徒の多様な教育的ニーズに応じた学びと可能性を広げるための学習環境整備の必要性
- ・生徒一人一人の個性や背景を尊重した教育を通じたウェルビーイングの実現
- ・地域産業を支える人材育成に向けた産業分野の学びの確保
- ・第3期構想との関係性

2 構想の位置付け

- ・国の方針等との関係性について
- ・新・宮城の将来ビジョンとの関係性について
- ・宮城県教育振興基本計画との関係性について
- ・他の計画（宮城県特別支援教育将来構想等）との関係性について

3 構想の期間

- ・構想期間変更の趣旨について（期間：令和8年度から令和21年度まで）
- ・実施計画の期間について（第一次：令和9年度から令和13年度、第二次：令和14年度から令和17年度、第三次：令和18年度から21年度）

第2章 高校教育を取り巻く現状と課題

1 第3期県立高校将来構想に基づく取組の実施状況

(1) 第1次実施計画に基づく取組の実施状況（R2～R4）

(2) 第2次実施計画に基づく取組の実施状況（R5～R7）

- ・中学校卒業生数の減少に対応し、活力ある教育環境の充実を図るため、再編統合や学級減を実施した。

2 高校教育を取り巻く現状と課題

(1) 社会経済環境の変化

- ・必要となる知識・能力（デジタル、グローバル化等）の変化
- ・成年年齢の18歳への引き下げ
- ・急速な少子化の進行と人口減少局面の継続

(2) 県立高校の現状と課題

- ・生徒の教育的ニーズに応じた学びの多様化
- ・地域産業を支える人材育成に向けた産業分野の学びの確保

第3章 高校教育の創造的な再構築に向けた考え方

1 基本理念

- ・全ての生徒の可能性を最大限引き出す質の高い高校教育を実現するため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- ・学校に生徒を合わせるのではなく、興味・関心や希望に応じて生徒が学びを選べる、生徒を主語にした高校教育を実現する。
- ・この実現に向け、少子化の急速な進行等の社会経済環境の変化を直視しながらも、魅力的な教育環境を整えるため単なる数合わせではなく、県立高校の創造的再構築を行う。

2 基本方針

- ・県内どこに住んでいても生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保する。
- ・スクール・ミッションの再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すことで、生徒に合った、質の高い学びの機会を提供する。
- ・少子化の進行による生徒数の減少や学校の小規模化の中でも生徒が切磋琢磨し、刺激し合うことができる環境を整える。
- ・デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバル化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整える。
- ・地域資源を活用するなどして専門性・応用力を高め、より実践的に学べる環境を整備する。
- ・多様な状況の生徒、配慮や支援が必要な生徒が取り組みやすい環境づくりを進める。

3 学校配置の考え方

- これまでの構想における7地区を、各教育事務所のエリアとした5つの圏域とし、圏域ごとに下記のとおり学校を配置することとし、学校間連携やオンラインによる教育空間の拡張などにより、宮城県全体を一つの「学校」と捉え、学びの環境を整えていく。
- ・普通科については、よりスクール・ミッションを明確化するとともに、普通科改革の推進や、拠点校での難関大学等への進学に対応した教育支援の充実など、一層の魅力化を推進する。
- ・専門学科は、複数学科の統合だけでなく、学校間・学科間の連携で必要な教育を提供するなどして、人口減少が続く中でも多様な教育の提供を行う。
- ・その他、圏域の実情に応じて、生徒の多様な生活・学習スタイルに対応するための高校（アイデアルスクール、多部制及び定時制高校等）を配置する。
- ・地理的条件等により通学が困難な状況にある地域については、1学年1学級規模の小規模校の存置又は通学・移動手段の確保も検討する。

4 学校規模の考え方

○地域の実情に応じて、一定の学校規模を確保する。

- ・人口減少を見据え、圏域ごとの必要学級数を設定する。
- ・必要学級数の設定に当たっては、私立高校の授業料実質無償化の影響も踏まえて検討する。

5 各圏域における再構築後の姿

- ・中部地区は、進学校と特色ある普通科高校のほか、専門学科の基幹校を配置する。
- ・中部地区以外は、圏域を基本として拠点校を配置するほか、特色ある普通科や専門学科は、学校・学科の連携・併置も含め、地域の特性を考慮して配置する。
- ・そのほか、アイデアルスクールやインクルーシブ教育などの多様な学びに対応する学校、一部の通学困難地域の小規模校は、地域の実情に応じて配置する。
- ・また、市立・私立高校と連携・調整しながら、県立高校が担う役割等を整理する。

第4章 高校教育の創造的な再構築に向けた取組

1 県立高校教育の質の向上の方向性

(1) 確かな学力の育成と安全・安心な教育環境の充実

- ・生徒一人一人が自らの可能性を最大限伸ばせるよう、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、生徒の学力に応じた学習環境を整備する。
- ・急速に進むデジタル社会に対応できる科学技術人材等の育成に向けて、高度な技術習得や地域等と連携した学びの環境を整える。
- ・STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進により、様々な情報を活用しながら、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力を育成する。
- ・国際化が進展する中で、他国の文化を理解し、実社会において外国人との協働に必要な知識や技能を有する人材を育成する。
- ・変化する社会経済環境の中でも生徒が安全・安心な環境で学ぶことができるよう、生徒のニーズに即した教育環境の充実を図る。

(2) 多様なニーズに対応した教育の推進

- ・様々な個性や能力、背景を持つ生徒の求める学習スタイル等に対応しながら、共生社会の実現に向けた取組を推進する。
- ・生徒の教育的ニーズに合わせた最適な学習環境の整備や、教育課程の編成などを通じて、将来の社会的自立に必要な資質・能力や、実社会において必要な知識を育む。

(3) 教育DXの推進

- ・生徒一人一人の興味・関心や習熟度に応じ、ICTやAI等のデジタル技術を活用した学びと、他者との関わりを通じて思考を深める対話的・体験的なリアルな学びを組み合わせ、生徒が知識と社会のつながりを意識しながら主体的に取り組む環境を整える。

- ・人口減少・少子化が進展する中で、魅力ある教育環境づくりを推進するため、オンラインの効果的な活用などデジタル化による教育内容の充実と効率化を図る。

(4) 地域と学校の連携・協働体制の推進

- ・全国募集の実施も含め、地域と連携しながら、多様な学習環境や学習機会を設けることなどを通じて、魅力ある学校づくりを推進する。

2 時代のニーズに対応した高校の魅力化

- 進学を希望する生徒については、オンライン授業の活用やピアグループ（協働学習体制）の形成など、生徒同士が切磋琢磨できる学習環境を整えることにより、全国の大学への進学など、進路の選択肢を広げる。
- 興味・関心や適性に合わせて学習したい生徒については、地域資源や社会的ニーズを反映した特色あるカリキュラムなどにより、実践的な学びに取り組むことを通じて、将来に必要な資質・能力を育成する。
- 先端技術などの専門的知識を身に付けたい生徒については、大学や企業との連携などによる高度な専門知識を学べる環境を整備することにより、専門性の高い職業分野への就職や進学に対応できる力を養う。
- 実社会で役に立つ知識を習得したい生徒については、地域の特性に応じた学科横断的な学びを通じて、地域に貢献できるような知識を育成する。

(1) 普通科

- 圏域を基本とした拠点校の配置や、進学意識の高い生徒のためのカリキュラムの充実など、環境を整備する。
- ・オンラインの活用による他の進学校などと連携した授業や課外講習の配信
- ・他の拠点校や中部地区の進学校と連携したピアグループ（協働学習体制）の形成
- 普通科改革の推進により、新たな学科の設置や地域等と連携した探究的な学びの推進など、地域の特色に応じた魅力化を図る。
- ・探究的な学びや学校の特色（防災、観光等）、地域資源（企業や商工会、大学等）、社会的ニーズ（デジタル、英語等）を踏まえたカリキュラムの導入などによる、実践的な学びの充実
- ・実践的な学びの充実に向けた、小規模校などの高校間における連携・交流
- 中等教育学校や、併設型、連携型の中高一貫教育校など、その強みが最大化されるよう実施形態の転換も含めて在り方を検討する。
- 大学との連携を強化し、大学における高度な教育や研究に触れることのできる機会等を設定する。

(2) 専門学科（総合学科含む）

- 我が県の基幹産業である農業、工業や水産に関わる専門高校を基幹校とし、大学や民間との連携により先端技術に関する学びを充実させ、その成果をオンライン等を

効果的に活用し、学校間で共有する。

- ・ 大学進学や専門性の追究など、多様な進路に対応した学びの機会の提供
 - ・ 理数系学科と工業系学科の併置などによる、科学技術者のスペシャリストの育成を目指す科学技術高校の設置の検討
- 基幹校以外に複数の学科を横断的に学ぶことができる環境を整備し、より実社会と結びついた学びの機会を提供する。
- ・ 農業科、工業科、商業科など専門学科ごとの魅力化に向けた環境の整備による、地域や学科の特性に応じた学びの実現
 - ・ 地域資源の活用やキャンパス制による施設の活用など、実践的な学びの機会の創出<各分野の学び>

①農業

- ・ スマート農業への対応など情報・デジタル技術などを活用した学びを充実させる。
- ・ 地域の特色を活かしたカリキュラムを設定する。

②工業

- ・ 複数の分野を学べるなど、柔軟な進路選択に対応できるようなカリキュラムを設定する。
- ・ 学校間や地域企業との連携により、多様な実習先を確保し、実践的な学習環境を整備する。

③商業

- ・ 農業や水産など他学科と連携し、生産から製造、販売までを総合的に学べる複合学科を設置する。

④水産

- ・ 他学科と連携し、水産資源の6次産業化など、生産から製造、販売までを総合的に学べる複合学科を設置する。
- ・ 海洋資源を活用した探究など、地域の特色を活かした学びの機会を提供する。

⑤福祉

- ・ 介護福祉士としての実務者の育成だけでなく、介護ロボット・ICT等の利活用や介護食の開発など、福祉について幅広く学べる学科を設置する。

⑥体育

- ・ スポーツの実践のほかに、スポーツ栄養やトレーニングなどの幅広い分野に関する知識の習得も図る。

⑦総合学科

- ・ 多様な学びを提供できることの特色や課題を整理した上で、総合学科が担う役割の明確化を図る。

- ・ なお、①～⑦以外の分野についても魅力化を図る。

3 多様な学びの在り方

(1) ideal スクール

○生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる ideal スクールの成果を踏まえ、他地域への拡充を検討する。

・ideal スクールの他地域への展開など、学習や学校生活適応への支援の充実を図る。

(2) 定時制・通信制の在り方

・定時制高校の現状を踏まえながら、ideal スクールで取り組んだ実績を活用する。

・ニーズを踏まえ、通信制高校（課程）の機能強化や増設を行う。

(3) 特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応

・共生社会の実現に向けて、高校と特別支援学校の併置等によるインクルーシブ教育を推進する。

・通級による指導の他、別室支援等による学習や学校生活への支援の充実を図る。

4 小規模校の学びの在り方

(1) オンラインの効果的な活用推進

・オンラインの効果的な活用により、小規模校における学びの質を確保する。

(2) 地域連携や学校間連携の取組

・小規模校の魅力化に向け、地域と密接に関わる探究的な学びなど、小規模校単独ではなしえない教育活動の機会を確保した学校づくりを推進する。

・学校間の連携により、学習機会を含む教育活動の機会を確保する。

5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

・オンライン教育センター（仮）の設置により、県内の学校同士だけでなく地域等との連携や海外との交流を図ることなどにより、学びの質を確保するとともに、専門的な学びや希望する進路への対応など、生徒の多様な教育的ニーズに応じた教育環境を整備する。

・従来の遠隔授業から得られた成果と課題を整理し、オンライン教育センター（仮）の効果的な運用を行う。

第5章 将来構想の推進

1 家庭・地域・学校の協働の必要性と役割

・将来構想の推進に向けコミュニティ・スクールの仕組みを活用し、家庭・地域・学校が役割分担をしながら協働する。

・市町村との連携・協働を一層推進するとともに、企業や関係団体等との連携体制等を構築する。

2 持続可能な学校教育の推進

・社会に開かれた教育課程の推進

・全ての生徒の可能性を最大限引き出す質の高い教育を実現するための教職員の資質能力向上と働き方改革の推進

・構想の実現に向けて、ニーズを見極めながら外部リソースも積極的に活用するなど、

必要な体制の確保に努める。

3 将来構想の推進に向けた適正な進行管理

(1) 社会情勢の変化に応じた進行管理

- ・さらなる少子化の進行や国の制度改正などに応じて、必要な見直しを行う。

(2) 適正な進行管理

- ・将来構想の推進に向けた関係者による推進体制を構築し、進行管理を行う。
- ・将来構想の期間のうち、6年が経過した時点で、その内容について確認する。